

○ 第1部 地域まちづくりについて	
1 新東名開通による増大する交通量対策について	
【市からの状況説明】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新東名高速道路の秦野区間は、今年度末に開通予定で、現在、工事が進められている。 ・ 「新秦野インターチェンジ」と名称が決定した。 ・ 新東名高速道路の新秦野インターチェンジの開通に伴い、国道246号の交通量の増加が想定されるが、上地区における具体的な抜け道の想定は、現時点では難しく、現段階で、地区内の新規路線の道路整備予定はない。 ・ 新東名高速道路の開通後の交通量を注視し、警察署と関係機関と連携し、対応していきたい。具体的には、交通規制、路面規制、注意喚起の看板設置等については、臨機応変に対応していきたい。 	建設部長
【質問・要望・意見等】	
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新秦野インターチェンジの開通に伴う国道246号から市道18号線の菖蒲での右折や左折の交通量の増加が懸念される中、ピーク時に1日あたりの通行量が何台等の予測はしているのか。 	菖蒲自治会
<p>(市回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場所は異なるが、戸川のスマートインターチェンジで上り4千台程度を推測している。 	建設部長
<p>(要望)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 菖蒲入口から三廻部入口、老人ホームへ抜ける道は、今でも交通量が多い。開通するとさらに交通量の増加が予想される。戈戸橋からの道路は、広くなく、家屋も多いため、交通量の増加が見込まれるならば、事故対策を検討していただきたい。通学路にもなっており、子どもの安全確保のため、以前から要望しているが、三廻部入口辺りに信号機を設置していただきたい。警察署は、交通量が少ないため無理であると言うが、事前に関係機関と調整していただきたい。 	三廻部自治会
<p>(市回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路の拡幅は土地の用地買収等の問題もあるが、道路の安全対策として、路面の標示やグリーンベルト等の白線が薄いと御指摘をいただくことも多く、市と警察署、関係機関が連携し、しっかり協議して取り組んでいきたいと考えているので、御相談ください。 	建設部長



2 駅から4km圏内にある上地区の過疎化の課題	
【市からの状況説明】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ さと地共生住宅開発許可制度は、市街化を抑制すべき市街化調整区域に対して、既存集落のコミュニティ維持のため、住宅が建てられなかった土地に対して、一定の条件を満たせば建てられるよう規制緩和したものである。本市の豊かな自然環境に配慮しつつ、里山や里地など魅力ある地域資源を活かした住宅の立地を受け入れ、市街化調整区域にふさわしい土地利用が図れるよう平成25年4月に創設した。 ・ 制度の周知のため、市のホームページ、広報はだのへの掲載、窓口でのパンフレット配架をはじめ、上地区でのイベント時にパンフレットの配布などを実施してきたが、制度開始後の平成25年から現在までの実績は6件7宅地である。 ・ より制度を利用しやすくするため、アンケート調査の実施や当該許可を利用された方への聞き取りなど、上地区に住みたいと考える方々の御意見等を参考にし、最低敷地面積、建ぺい率、容積率の基準を本年4月1日に緩和した。 ・ このほかにも、昨年度は許可制度が利用できる候補地の調査を行った。今後はその調査結果を踏まえ、上地区への移住を希望する方への情報提供ができる仕組みの創設について検討をしていくとともに、引き続き許可制度の周知に努めていく。 	都市部長
【質問・要望・意見等】	
<p>(要望)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本制度は、上地区を対象とし、その他にも、かみちゃん号への支援金や10月15日号の広報はだのに上地区ハイキングコースを掲載していただくなど、市から上地区への配慮をいただき、御礼を言いたい。 ・ 上地区は、農地の荒廃化が進んでいる。今後、JA上支所が西支所へ統廃合する予定にあるが、上地区が衰退しないように、上小学校や上公民館等の公共施設を残していただきたい。 ・ さと地共生住宅開発許可制度は、道路から4メートル以上が前提にあり、条件を満たすのは難しい。都市計画法ができてから5年が経過するが、にぎわいは少なくなり、農地の耕廃化が進んでいる。都市計画法の理念として、健康で文化的な生活ができるよう基盤を作っていかなければならない。上地区に子どもたちが住み、開発しやすいような制度の活用をお願いしたい。 	三廻部自治会
<p>(市回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先程の説明のとおり、敷地面積、建ぺい率、容積率の規制を緩和した。農地についても、現行の中で、建築できない優良農地等を除き、色々なことを検討し、都市計画法の考えに逸脱することのない、利用しやすい制度にしたいと考えています。 	都市部長
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さと地共生住宅開発許可制度ができた当初、不動産屋は喜んだが、規制の内容は、かなり厳しい。 ・ 今は空き家対策を進めるほうが効率がいいと思う。 	菖蒲自治会

<p>(意見、要望)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成23、24年頃だったか、上地区のプロジェクトを作り、総合計画に入れようという時代があった。当時の行政の人は、住宅ができるという考えだった。ところが、不動産関係者は、売れないという見解だった。当時の上地区の考えは、まち中を市民農園にし、動物を飼い、1つのコミュニティを作り、一定の定住を図るものだったと思う。完全に定住ではなく、家があり、生活の半分で、時々来るくらいでいいのではないかという形を考えていた。上地区に、知恵を与えていただきたい。 	<p>三廻部自治会</p>
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 上小学校の小規模特認校について、現在、15名まで児童が増えてきた。柳川地区に10軒ほど、ログハウスの住宅ができ、小さい子がいる家族が引っ越してきて、上小に通っている子どももいる。 さと地共生住宅開発許可制度の規制の緩和の話は、情報を活用し、PRしないと地域外の人に浸透しない。コロナがチャンスである。田舎に移り、会社は東京だが、会社に行かずに仕事は家でリモートをする人が増えた。都会のアパート暮らしは高いので、コロナをチャンスにするような施策をお願いしたい。今は、情報入手はインターネットによるものが多く、ぜひ、インターネットを活用し、行政には、分かりやすい施策をお願いしたい。 	<p>菖蒲第1自治会</p>
<p>(市回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナをチャンスにした施策を実施していくべきだと考えている。例えば、本市だけでなく、中井町や二宮町、他の市町村と一緒に活動すると、県から交付金を受け取ることができる。既に、この交付金を活用し、SNS等で情報発信し、移住者を募る取組を行っている。 本市に来てもらうことが大事であり、例えば、タウンニュースの横浜版や川崎版に記事を載せて、まずは、本市を知ってもらい、来てもらうような取組をしている。また、小田急についても、沿線の人たちに来てもらえるようPRしている。 SNS等の情報発信力を強め、活用し、市外にアピールしていきたい。アイデア等がありましたら、市へお寄せください。 	<p>政策部長</p>
<p>(意見、要望)</p> <ul style="list-style-type: none"> 上小学校の児童数は、現在、70人程度である。学区外からの利用者が、上小学校の全世帯数の3分の1を超えようとしている。 上地区に引っ越し、上小に通おうと思っても、なかなかいい物件がなく、アパートもない。実態は、堀西に住み、通う子が多い。他の地域からかみちゃん号を利用し、甘柿橋まで来て、山をのぼる子がいる。子どもたちが、安全に集まれるよう場所をお借りし、みんなが集まり、馬場坂を通り登校できるように地域で協力をいただいている。 小規模特認校の利用者の保護者には、上地区の活動を魅力的なものと思い、PTA活動にも積極的に参加されている。上地区に移り住みたいと思っても、なかなか引っ越してこれないのは勿体ない。現在、上っ子は全児童数の3分の2だが、来年度は半分くらいの見込みである。PTAとしては、地域外から来る方も、地域内の方も、子どもたちは分け隔てなく仲良く過ごしているので、PTA活動をどう盛り立て、PTAの仕事の違いに差がないように対応している。 上小は残るが、上っ子がいなくなることを危惧する。子育て世代が移り、住みやすいものであって欲しい。上地区を求めている人は多いが、住む場所として合うものがないと感じている。 	<p>上小PTA</p>

	<p>(市回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上小の児童数の3分の1が地区外であり、地区外が多いと、以前から話は聞いていた。 ・ 上地区に移り住み、上小学校に通ってもらうのが基本であると思っている。 ・ さと地共生住宅開発許可制度をより利用していただけるように検討するが、土地利用はなかなか難しい。都市計画法により、市街化区域と市街化調整区域が複雑に関係するようだが、無秩序に規制緩和することはできないため、難しい。しかし、上地区に合った形で取り組めるよう考えている。多くの人が上地区に移り住み、上小に通ってもらえるように、また、上地区のまちづくりを壊さぬよう、取り組んでいきたい。 	<p>市長</p>
<p>3 上地区の観光促進による活性化について</p>		
<p>【市からの状況説明】</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上地区では観光PR活動としてホームページの作成やマップの作製等の観光PR活動に取り組まれるとのことだが、本市では、昨年9月に表丹沢に点在する農林業、観光、歴史、文化などの様々な分野の資源を磨きつなげ、新たに触れる機会を増やすことで、表丹沢における一人ひとりの本物の魅力を見つけ出せることをビジョンに掲げた「表丹沢魅力づくり構想」を策定した。 ・ これにより、市民の地域への愛着や誇りを醸成するとともに、交流人口や関係人口を創出し、地域の活性化につなげるものである。この構想を進める一つとしてホームページの作成がある。 ・ 市のPRとしては、観光振興課や観光協会のホームページにつなぐ紹介をしているが、さらに、表丹沢の魅力を発信するホームページを立ち上げる予定である。各ホームページの役割をしっかりと確立した中で、上地区のホームページの内容を見極め、効果的なPRの方法を検討しながら、上地区のPRをしていきたいと考えている。 ・ 農園ハイコースやハイキングコース上の公衆トイレの設置については、現在、上地区のハイキングコースとして、表丹沢県民の森・県立秦野戸川公園コースを案内し、表丹沢県民の森には老朽化しているものの、既に公衆トイレが設置され、県立秦野戸川公園にも設置されている。 ・ 上公民館や柳川児童館等の、地元の協力により、8箇所のトイレを整備している。公衆トイレについては初期費用及び維持管理費用が大きな財政負担になるため、現時点での設置の考えはない。 ・ しかし、今後、新東名高速道路の開通や秦野丹沢SAのオープン、表丹沢魅力づくり構想の具現化により、観光客の動向にも変化があることが想定されるため、多くの方に本市の魅力に触れる機会が増え、観光客の動向にも変化があることが想定されるため、ハイキングコースの利用状況や周辺環境等を踏まえて、トイレの設置場所等を検討していきたい。 ・ 上地区は、里山の原風景が残り、里山暮らしが体験できる資源も豊富にあるため、集落として、生活そのものが大きな魅力である。 ・ 生活の一部である農業、それが体験できる農園ハイクは、地域が一体となって取組、令和元年度は、過去最多の104組306人の参加があった。 ・ 地元の強みを生かした形で観光客の誘致に取組、地域の活性化に向けて地元の方々と連携して進めていきたい。 	<p>はだの魅力づくり担当 部長</p>

【質問・要望・意見等】	
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度、市から上地区まちづくり委員会に、年100万円をいただき、大変喜んでいる。この中で、現在、PR事業やソフト、ハード事業を計画している。上地区の石仏、道祖神を巡る、古道を巡る、マップを作製しようと計画している。トイレをどこにするか、また、エリア別に、1、2時間で周遊できるコースを考えている。八沢にトイレがあれば、菖蒲に行ける。トイレの位置をマップに記載したいと考えている。 	菖蒲第1自治会
<p>(市回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> トイレを新たに設置するよりも、八沢のかわじ荘にあるものを利用してはどうか。 トイレの必要性は分かるので、散策を楽しむ人が、利用できる形にしたいと思う。今後、調整を図りたい。 	市長
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 先日、文化会館で絵画展を見た。公民館で絵を勉強する人たちが、テーマに基づく作品を描き、一人ひとり、絵の下にコメントを書いており、実に感動した。 観光と言うのは、光っているところを探すものである。輝いているものを見つけてくる、体験してくる、触れてくることである。この多様性の中に観光があるのだと思う。 単にコースを作ればよいという問題ではなく、色んなテーマを設けて、テーマに基づいて、上地区を歩いてみませんか、訪れてみませんかという方向性を多様性の文化の中で実現できたらいいと思っている。作品展に感動した。テーマが大事であると思った。 	三廻部自治会
○ 第2部 市政全般について	
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成11年に週休2日制度が始まり、こどもプラン21が始まり、上地区の中に、上自由学校を作った。歴史などのそれぞれの分野の3人の学長、いわゆる、地域の先生がいて、子どもたちを教育する総合学習の中に、遠泳や富士登山があり、前青少年育成部会会長が私費で子ども達を行かせていた。財源の確保が困難な中、今年は、このまちづくり交付金を活用することができ、大変感謝している。今回の事業と富士登山のつながりは、「里地里山 豊かな自然と共生し、住む喜び 感じるまち」の取組の中で、子育て支援の仕組みづくりと各種事業の連携、地域の事業と小学校事業との連携強化の具体化を図り、上地区活性化を推進、継続化させ、子どもたちの笑顔あふれる上地区を目指すところにある。 今年、17回目として、富士登山の募集を募ったが、小学校6年生だけでなく、昨年に行けなかった中学生も対象とした。中学生は部活で参加できなかったが、小学生を連れて行くことができた。 また、子どもたちは、1年生から遠泳で1キロメートル泳ぐために、ずっと練習して頑張ってきたが、コロナ禍で実施できなかった中、唯一、富士登山を実施できたことはいい体験になった。 あと2年で、上小学校と本町小学校が150周年を迎える。特認校ということもあり、富士登山などの取組を続けていきたい。 コロナでプールの授業がなくなったが、他の学校はプールで密になるだろうが、上小学校は15名で25メートルプールを使用することを考えると、市内一律に中止とするのではなく、何らかの方向で、子どもたちがプールで泳げる環境を作っていただきたい。コロナで事業を全て中止するのではなく、子どもたちが体験ができるよう、市も御協力をお願いしたい。 	青少年育成部会

<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年後の上小学校の150周年を迎えるに当たって、実行委員会等を立ち上げる予定である。 ・ コロナで制約が多い中、特認校の制度により、上小学校の特色ある学校生活に期待を膨らませて来る保護者の期待値を考え、行事等を中止しない方法を探りながら、PTA活動に取り組んでいる。その中でも、遠泳等が中止になり、6、7月に今後のイベント開催に向けて準備する中では、中止したほうがいいのかという保護者からの反対意見もあった。開催の判断をPTA会長預かりとし、夏休み明けのぎりぎりまで待つなど、活動は厳しかった。 ・ 富士登山は、PTAや学校が主催ではなく、地域の方が事前にPCR検査まで実施し、自分たちの安全確保を行いながら企画していただき、実施できたことはよかったと思う。お金も大事だが、地域の協力も大事であり、地域の人たちの協力は上地区の財産であり、感謝している。 ・ 教育委員会が、数年かけて各小学校に土俵を整備したが、現在、唯一残っているのは上小学校だけである。地域の方から200万円の寄附があり、やぐらを立てた。このやぐらの4本の柱のうち、状態の悪いものもあり、3年ぐらいずっとお願いし続け、やっと、今年度調査ができた。その結果、柱4本のうち3本は、中が空洞で、緊急対応しても、3年間しかもたない。歴代PTA会長や地域にも相談や協力をお願いするが、150周年を迎えることもあり、今後、市にも協力をお願いしたい。 	<p>上小PTA会長</p>
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すもうのやぐらのいきさつは、当初、上地区の森林組合の予算をいただき作ったものである。今回も森林組合へのお願いを考えているが、加えて市の予算から協力をお願いをしたいというものである。 	<p>青少年育成部会</p>
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市では、秦野表丹沢森林セラピーロードコースを発表しているが、このコースの中に、市の広報にも掲載したかみちゃん号で行く県民の森ハイキングコースを加えて、6コースにして欲しい。 ・ はだの歴史資料館に入ってすぐに、各地区の歴史や文化が紹介されているが、上地区の紹介がない。上地区が出てくるのは、菖蒲の道祖神のこととあくま祓い。上地区には、歴史や文化がないわけではない。上小学校150周年の歴史があるが載っていない。映像はインパクトがあり、上地区の子どもたちが行って、見たときに、自分たちの住む地域には、歴史、文化がないというインパクトを与えてしまうので、ぜひ、上地区を紹介するよう改善していただきたい。 	<p>柳川第2自治会</p>
<p>(市回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登山やハイキングと森林セラピーとの大きな違いは、森の中で過ごすことを重視している。道幅が広く、緩やかな傾斜、歩きやすくベンチや休憩施設が十分設置され、ゆっくり森の中を楽しめることが条件である。平成30年度は8コースを検討した。調査の中で、森の多様性や川のせせらぎ等の五感に働きかける、良好な自然が高く評価されたが、一方で、車両が入れないなど、アクセスの問題があり、認定には至らなかった。今後、ハイキングコースを制定するので、御相談いただき、検討したいと考えている。 	<p>はだの魅力づくり担当部長</p>

<p>(市回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 秦野歴史資料館のスクリーンで写される映像に上地区が入っていないのは、昭和30年の合併前の中郡の教員が作成したスライドを原版とし、足柄上郡であった上地区の画像が存在していないためである。 ・ 上地区には、新東名高速道路の発掘調査で出土した縄文遺跡や曾我伝説のある不動院、『新編相模国風土記稿』に記された砂金伝説、源頼朝の供養墓、三廻部用水といった歴史のあるコンテンツが多数あるので、映像の更新の際に検討していきたい。 ・ 今後、上地区の歴史や文化に係る昔の写真等をお持ちの方で、はだの歴史博物館への情報提供等が可能である場合は、はだの歴史博物館へ御連絡いただきたい。 	<p>政策部長</p>
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 秦野名水のペットボトルは、市役所隣のファミリーマートに行かないと買えない。自販機を増やすなど、もっとPRしてはどうか。 	<p>母の会</p>
<p>(市回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内のコンビニでもっと取り扱いをしていただけるようお願いしている。また、本庁舎1階の右側に、1列全部に秦野名水が入っている自販機があるが、今後増やしていきたい。 	<p>政策部長</p>
<p>(要望)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年から5年間、市民によるまちづくりの推進がスタートした。年間100万円を上限に市内8地区へ交付されるのは、大きな事業である。これをどのようにまちづくりの活性化につなげていくかが基本である。上地区のまちづくり委員会への要望となるが、上地区のインベーションが検討されており、ぜひ、可能な限り早めに推進し、まちづくり委員会に諮り、上地区全戸に対して、今後こういうことを実施したい、このように進めたいという方向性を示し住民参加の意識の醸成を図っていただきたい。それが、まちづくりの意義である。イベントを実施すればいいというものではない。周知をお願いしたい。 ・ 公民館にまちづくりコーディネーターがいるので、真剣勝負で取り組んでいただきたい。 ・ 行政は、実施したことを紙1枚で報告すればいいというものではない。地域に100万円を支出し、単に自治会に報告すればいいというレベルではない。開かれた市民発表会を実施していただきたい。コーディネーターを呼び、評価をしていただきたい。また、総合政策課なり、市民活動支援課から、発表を聞いて、どう評価するのか、はっきりとしたコメントを聞きたい。 ・ 市民も行政も、汗を流し、知恵を出さなくてはいけない。 ・ まちづくりはコミュニティの六次産業であり、知恵を出さなくてはいけない。総合計画にある知の循環をどのように作っていくか。 ・ 発表により、発表のドラマをみんなが受け継ぎ、受け止めて欲しい。 	<p>三廻部自治会</p>

<p>(市回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「まちづくり交付金の制度はいつまで続くのか」と聞かれるが、この制度を生かすか否かは、地域の皆さんの知恵比べであり、また、続くか否かは、各地域次第である。まちづくりの真剣勝負と思っている。交付金をどう活用したか、このような活用方法もあるのかという気づきも出てくるだろうと思っている。 ・ 事務局の市民活動支援課に既に話しているが、本来の目的に照らすと、団体へ定額でお金を渡すような補助は疑問に思うところがある。このような使い方のないようになりたい。 ・ 富士登山は、特色ある、地域に根付いた取組であり、このような取組に、ぜひ、補助金を活用していただきたい。 ・ 報告書を作成するのが目的ではなく、この補助金がどのように有効的に活用されたかを確認するのが目的である。何らかの形でみんなが共有できるような場を作りたい。 	<p>市長</p>
<p>(質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国道246号バイパスの進捗状況を教えていただきたい。 	<p>柳川第2自治会</p>
<p>(市回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新東名高速道路と国道246号バイパスの活用は、市の大きなテーマである。国の事業のため、国に要望するが、今年の秋も要望している。近隣では、千葉県で事業化されており、次を狙い頑張っており取り組んでいる。具体的な時期はお答えできないが、そういう思いで取り組んでいる。 	<p>建設部長</p>